事業所名 グループホームいやしの家福吉町

（クリックすると事業者の情報にリンクします）

日　　付　　　平成21年　3月31日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド

（クリックすると評価機関の情報にリンクします）

評価調査員

A：現職　　デイサービスセンター管理者

資格・経験　社会福祉士、介護支援専門員、ホームヘルパー2級

B：現職　　民間教育機関講師

資格・経験　介護支援専門員、ﾎｰﾑﾍﾙﾊﾟｰ2級、難病患者等ﾎｰﾑﾍﾙﾊﾟｰ、福祉住環境ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、歯科衛生士(14年)

自主評価結果を見る　（事業者の自主評価結果にリンクします）

評価項目の内容を見る　（評価項目にリンクします）

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）

（事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします）

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など（記述）

・管理者は、日々の業務を通じて現場スタッフの声を大切にしながら介護のあり方を常に考える姿勢を持ち、職員全員の目線を合わせ、統一した質の高い介護サービスの提供を志している。日頃からの職員同士のコミュニケーションを大切にして、職員同士の連携を上手く取ることで、入居者本位の介護サービス提供に活かしている。代表者・管理者ともに「働きやすい職場づくり」に取り組み、資格取得支援体制など、職員の働くうえでのモチベーションを向上させることで、ホーム全体のレベルアップを図っている。

・独居あるいは家族関係の希薄な入居者も多いが、病院への付き添いなどの「横出しサービス」も積極的に行い、入居者が皆安心した生活が継続できるような運営体制である。

・開設母体が薬局であり、服薬指導なども厳密で、健康管理には重点を置いている。また、協力医との連携が密であり、医科・歯科ともに医療面でのバックアップが非常に大きい。『＊入居者と家族の希望により、看取りも行っている。（過去に実績あり）　＊入居者のＡＤＬ（身体機能）が低下しても、ＱＯＬの高い日常を支援できるような介護サービスの提供を目指している。　＊入居者に最期まで安心して暮らしてもらえるよう、最大限の努力を惜しまない体制である。』

・口腔ケアに重点を置き、毎週（月４回）協力歯科医院から歯科技工士・歯科衛生士が訪問のうえ、個別の口腔清掃や義歯の調整、口腔リハビリ体操の指導を行っている。口腔衛生の向上が健康維持・増進につながり、加齢に反して介護度が軽減された入居者もいる。

・地域密着型サービスとは何かを常に考え、地域住民の協力を得られるよう日頃から努力すると同時に、さらに地域に貢献できるよう前向きに取り組む姿勢である。

・余暇の時間でも入居者の多くが共用空間で過ごしており、職員そして入居者同士の距離間が心地よく保たれ、安心感のある雰囲気が醸しだされている。

・特になし
「法人全体での勉強会などを増やし、サービスの質を高めたい」という前向きな姿勢を、ぜひ今後も継続していただきたい。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か（記述）		

・いやしの家福吉町の目指しているグループホームは、「１．基本的人権の保護　２．家庭的な生活　３．生き甲斐のある生活」を重点に置き、これからの人生をゆっくりゆったりと歩めるよう、安心して暮らし続けられる生活の支援である。

・入居者の思いに応える質の高い介護サービスを提供するべく、管理者が先頭に立って職員全員が常に入居者の気持ちを考えて行動できるよう、日々指導している。

・職員都合で入居者の自由・尊厳を束縛することがないよう、一人ひとりのこれまでの生活を尊重したうえでの介護サービスの提供に努めている。

・長年独居であった方や家族背景の希薄な入居者が多い現状から、ホームが「家庭」としての機能している部分が非常に大きく、プロとしてのサービスを提供しつつ、家庭として、一人ひとりに寄り添った介護がなされている。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か（記述）		

・時間の流れがゆるやかで、入居者のスケジュールが「管理されている」という拘束感を感じることなく、ごく自然に自由に生活できている雰囲気であった。

・ユニットの共用空間（ホール）には畳スペースが設けられており、時には一人でゆっくりと過ごせるような空間の配慮も見られる。

・あくまでも「自立を助ける」という姿勢で、不必要な手出しをせず、入居者一人ひとりに応じて必要な見守り・介助・介護が行われている。

・家族のない入居者も多いため、外出（散歩）から通院に至るまで、すべての職員が付き添い、一人ひとりの希望とニーズに沿った生活が送れるよう、徹底した介護サービスの提供を行っている。

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か（記述）		

・入居者の発語（意見・要望）にしっかりと耳を傾け、その人のコミュニケーション能力に応じて、時には身振りなども適宜取り入れながら意思の疎通に努め、それぞれのニーズに添った介護サービスの提供を心がけている。

・プライバシーの保護への取り組みとして、特に排泄の際には、他の入居者に悟られないようにしている。ホーム設計のうえで、浴室とトイレを隣接し、ドアで通じさせていることから、失便の際には羞恥心に配慮しながら素早く対応できるなど、すべてにおいて入居者の人格を尊重し、心に寄り添った介護が行われている。

・一人ひとりの経験の尊重として、入居者の生活歴・趣味などを把握したうえで、共用空間の中で楽しみながらきり絵の作業を行うなどのリハビリの工夫が見られる。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か（記述）		

・現状に満足することなく、常にサービスの向上を念頭に置き、事業所内研修（勉強会）等を実施しながら、ホーム全体での研鑽に積極的に取り組んでいる。また、職員のスキルアップのための資格取得も支援している。職員全員がホームヘルパー等の有資格者であり、介護福祉士・介護支援専門員の資格取得者も多い。全職員が揃って質の高い介護サービスの提供が実践できるよう、情報の共有化と理解を促す取り組みがなされている。

・ヒヤリハットファイルには、「介護事故・インシデントレポート」が備えられており、現状維持ではなく、より良いサービス提供を目指すため、問題発生の防止と問題点の発見の対策が行われている。

・職員同士の会話の中にきちんとした敬語が使われており、プロ意識を感じさせる業務への取り組みが伝わってきた。